

誰もいない国
NO MAN'S LAND Translated by Kishi Tetsuo
Directed by Jitsunashi Satoru
BY HAROLD PINTER
11/8 [木] THU — 11/25 [日] SUN
作◎ハロルド・ピンター 翻訳◎喜志哲雄 演出◎寺十 吾
柄本明 石倉三郎 有菌芳記 平埜生成
前売開始 ————— SUN [日] 2018 9/9

ノーベル文学賞を受賞した劇作家ピンターによる傑作。
イギリス・ロンドンを舞台に、アイデンティティの境界線を問う。
柄本明、石倉三郎ら名優が新国立劇場の舞台上で競演する！



【芸術監督】小川絵梨子



【演出】寺十 吾



柄本 明

石倉三郎

有菌芳記

平埜生成

【チケット好評発売中】 新国立劇場ボックスオフィス 03-5352-9999

写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ

©新国立劇場 制作部演劇 広報担当

TEL: 03-5352-5738 / FAX: 03-5352-5709

©新国立劇場 制作部演劇 制作担当

TEL: 03-5352-5736



新国立劇場

<http://www.nntt.jac.go.jp>

◎作品について

ノーベル文学賞を受賞した 20 世紀を代表する劇作家ハロルド・ピンターの『誰もいない国』が新国立劇場で 11 月に上演されます。本作は 1975 年ロンドン、ナショナル・シアターでピーター・ホール演出により初演されました。2016 年には、同じくナショナル・シアターで名優イアン・マッケランとパトリック・スチュワートによりリバイバル上演され、その映像がナショナル・シアター・ライブに世界配信されたことも記憶に新しいところです。

個人のアイデンティティの危うさや、社会の欺瞞、あるいは人間関係の不安定さを、鋭く切り詰めた言葉で、時に過激に表現し、登場人物のキャラクターを崩壊寸前まで突き詰めたピンターの作品群は、21 世紀になった今でも現代人の心に深く突き刺さります。本作もまた、一室のなかで繰り返される会話を通して、パワーバランスの変化や、関係の曖昧さ、確信できない過去が浮かんで消え、果たして会話の内容が真実なのか一種のゲームを演じているのか、虚実のわからなさを楽しむピンターの世界が繰り返されます。

今回の演出には寺十吾が新国立劇場に初登場、ピンター研究の第一人者喜志哲雄とともに、上演台本を作成し、緻密な演出でピンターの世界を描きます。

◎あらすじ

ロンドン北西部にある屋敷の大きな一室。ある夏の夜、屋敷の主人ハーストとスプーナーが酒を飲んでいる。詩人のスプーナーは、酒場で同席した作家ハーストについて家まで来たようだ。酒が進むにつれ、べらべらと自らをアピールするスプーナーに対し、寡黙なハースト。スプーナーは、共通の話題を見出そうとハーストに話をふるが、もはやそれが現実なのか虚構の話なのかわからない。そこへ、ハーストの同居人の男たちが現れて……。

◎演出 寺十吾からのメッセージ

「言葉」が、ちゃんと気持ちを表せるもの、本当の事を直接言い表せるものとして扱われ妄信されるようになった昨今、セリフとは何であるかと改めて考えみたら、やはりそんな筈は無い訳で、実は思ってる事と言ってる事はズレまくり、やってる事と言ってる事がまるで違い、嘘と本当がごちゃ混ぜになり、しまいには何が言いたいやらさっぱりわからんというのが言葉の本来の性質で、この性質を活かした結果、解読不能な戯曲は世界中にあります。

そこが面白い。言葉がままならないからこそ面白い。

真実とか本当に言いたい事なんて如何わしいものは、やはり如何わしい言葉を羅列して羅列してやっと、ようやくボンヤリそれらしいものが気配を見せるだけで、いうなればそれらは言葉で言い表したのでは無く、言葉という鉤の棒で水中を引っ掻き回した果てに、やがて水面に浮かんでくる水底の泥に混じった血のようなものだと考えます。

ハロルド・ピンターの「誰もいない国」では、その果てにどんな面白い模様が浮かぶかを楽しみにしながら水面に漕ぎだしたいと思っています。

◎スタッフプロフィール

ハロルド・ピンター (Harold PINTER)

1930年、ロンドン生まれ。俳優としてキャリアをスタートし、57年、処女戯曲『部屋』で劇作家に転身。同年に『誕生日パーティ』『料理昇降機』を発表後、『管理人』(59)で注目を集め、その後、『帰郷』(64)などの作品で地位を確立。追いつめられた人をめぐる不条理を、恐怖とユーモアのうちに描く独特の作風は、その名を冠してピンタレスクと呼ばれる。初期の心理的リアリズムを指向する作風から、『風景』(67)などの詩的な作品を経て、とりわけ『景気づけに一杯』(84)以降は政治色の強い作品を次々と発表。ラジオ・テレビドラマ、映画の世界でも活躍し、『フランス軍中尉の女』(81)『スルース』(2007)などの映画脚本で知られる。人権活動家としても著名で、イラク戦争開戦時にも積極的な反戦活動を展開した。他の代表戯曲に『誰もいない国』(74)『灰から灰へ』(96)などがある。05年ノーベル文学賞受賞。08年12月24日、78歳で逝去。

寺十 吾 (JITSUNASHI Satoru)

1964年、京都府出身。92年、劇団「tsumazuki no ishi」結成、主宰として演出・出演をこなす。俳優・演出家として、幅広く活躍中。主な演出作品に、日本文学シアターシリーズ『黒塚家の娘』『遊侠 沓掛時次郎』他、『あたま山心中〜散ル、散ル、満チル〜』『奇想の前提』『悪魔を汚せ』『関数ドミノ』『お蘭、登場』など。

◎出演者プロフィール

柄本明 (EMOTO Akira)

東京都出身。1976年劇団東京乾電池を結成。座長を務める。1998年「カンゾー先生」にて第22回日本アカデミー賞最優秀主演男優賞を受賞。以降、映画賞をさまざま受賞。映画のみならず、舞台やテレビドラマにも多数出演し、2011年には紫綬褒章を受章した。2015年には第41回放送文化基金賞 番組部門『演技賞』受賞。最近の主な舞台として『授業』『PLUTO』『風のセールスマン』『ただの自転車屋』『煙草の害について』『マリウス』などがある。新国立劇場初登場。

石倉三郎 (ISHIKURA Saburo)

香川県小豆島出身。1967年に東映に入社し大部屋俳優として活動。72年に退社、商業演劇に活動の場を広げ、その後数多くの映画、テレビドラマ、舞台に出演。主な映画出演作に、『オルゴール』『四十七人の刺客』『岸和田少年愚連隊』『どら平太』『座頭市』『犬神家の一族』『相棒劇場版II』『あなたへ』『つむぐもの』など。舞台としては『陽だまりの樹』『さくら橋』『笑う門には福来たる』など。新国立劇場では『ゴドーを待ちながら』に出演している。

有蘭芳記 (ARIZONO Yoshiki)

東京都出身。1982年に第三エロチカに入団。90年に退団。映画『月はどっちに出ている』『県庁の星』『探偵はBARにいる』『おかあさんの木』『僕は坊さん』『家族はつらいよ2』、テレビドラマ『風林火山』『あまちゃん』『軍師官兵衛』『極悪がんぼ』『ルーズヴェルト・ゲーム』『悪貨』『とと姉ちゃん』など出演。近年の主な舞台として『マリウス』『さらば八月の大地』『ハーベスト』『コレセット』など。新国立劇場では『マクベス』『透明人間の蒸気』『カエル』『アルゴス坂の白い家-クリュタイムストラ-』『十九歳のジェイコブ』『東海道四谷怪談』『ヘンリー四世』に出演している。

平埜生成 (HIRANO Kinari)

東京都出身。2017年『私はだれでしょう』にて第25回読売演劇大賞上半期男優賞ベスト5に選出される。主な出演作に、映画『ジョジョの奇妙な冒険 ダイヤモンドは砕けない 第一章』『亜人』『斉木楠雄のΨ難』劇場版コード・ブルー -ドクターヘリ緊急救命-、テレビ『おんな城主 直虎』、『正義のセ』、舞台『オーファンズ』『DISGRACED-恥辱-』がある。新国立劇場初登場。

◎公演概要

【タイトル】 誰もいない国 (No Man's Land)

【スタッフ】

作: ハロルド・ピンター

翻訳: 喜志哲雄 演出: 寺十 吾

美術: 池田ともゆき / 照明: 中川隆一 / 音楽: 坂本弘道 / 音響: 岩野直人

衣裳: 半田悦子 / ヘアメイク: 林みゆき

演出補: 大西一郎 / 演出助手: 城田美樹 / 舞台監督: 幸光順平

芸術監督 小川絵梨子

主催 新国立劇場

【キャスト】 柄本明 石倉三郎 有蘭芳記 平埜生成

【会場】 新国立劇場 小劇場 (京王新線 新宿駅より1駅、「初台駅」中央口直結)

【公演日程】 2018年11月8日(木)～11月25日(日)

【料金】 A席6,480円、B席3,240円、Z席1,620円(税込)

【チケット申し込み・お問い合わせ】※一般発売:9月9日(日)10:00～

新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nnt/>

* **Z席1,620円** 公演当日10時よりボックスオフィス窓口で販売。1人1枚。電話予約不可。* **当日学生割引** 公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について50%割引にて販売。要学生証。電話予約不可。* 新国立劇場では、高齢者割引(65歳以上5%)、障害者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(中学生以下20%)など各種の割引サービスをご用意しています。